

第3次エコチル調査基本計画骨子（案）について

第3次エコチル調査基本計画改定の趣旨

- エコチル調査基本計画（令和5年3月30日改定）において、「参加者（子ども）の先頭集団が17歳に達する令和10(2028)年度を目途に見直しを行なうことを予定する。」とされていることを受けて、第3次エコチル調査基本計画骨子（案）を作成した。第3次基本計画においては、18歳以降の調査に関して、その疫学研究デザインの基本となる方針を定め、**科学的エビデンスの構築、適切なリスク管理体制の構築、環境保健政策への貢献、次世代の人材育成**を目指す。

第3次エコチル調査基本計画骨子（案）の概要

戦略

3つの戦略軸① **持続可能な調査体制の構築**、② **効果的/効率的な調査の実施**、③ **調査結果の利活用推進**を設定し、効果的な研究成果の国民還元を目的とした管理/実施体制の効率化を行う

対応案

① 持続可能な調査体制の構築

- 実施体制の整備
 - ✓ 事業部門と研究部門の分離
- 人材育成
 - ✓ エコチル調査自体をプラットフォームとして人材育成に利用し、日本の様々な研究開発に寄与できる人材を育成

② 効果的/効率的な調査の実施

- 参加者維持、エンゲージメント
 - ✓ 参加者主体となる取組みを加速
- 効率的な生体試料、データの保管
 - ✓ 入出管理を自動化した保管システムを整備
 - ✓ 災害等に備えた一部資料の分割保管/全自動保管システムの実証試験の実施
- 化学分析の推進
 - ✓ 分析結果が得られるまでの作業を最適化するための化学分析の内製化/外製化、人的体制の確保や自動化の実施
 - ✓ 外部資金による化学分析の推進

③ 調査結果の利活用推進

- データ試料の利活用
 - ✓ データ利活用ポリシーの見直し
 - ✓ データ管理体制の再構築
 - ✓ データ収集の多様化
- 成果の外部評価
 - ✓ 客観的に評価可能な仕組みの構築
- 国民への還元
 - ✓ 広報部門の設置
 - ✓ 情報発信の促進と専門的人材の育成
 - ✓ 簡易ツールの構築
 - ✓ 教育現場でのエコチル調査の利活用促進
- 国際連携の推進
 - ✓ 海外機関との共同研究体制構築、発展途上国への技術支援、国際機関との連携強化

基盤

- 調査手法の効率化
 - ✓ 公的データベースとの連携
- 調査対象者リクルート
 - ✓ 生活環境の変化を検証できるコホート設計
- 調査項目/スケジュール
 - ✓ 変化に応じた調査項目を臨機応変に追加できる仕組みを構築
- データマネジメント
 - ✓ データセンターでの一括管理
 - ✓ データ共有のクラウド化
- 調査の質の保証
 - ✓ データ収集のICT化および中央化